

1990年4月1日から2018年6月30日まで川崎医科大学総合医療センターおよび附属病院内科を肺炎で受診、入院された患者さんへのお知らせ

課題名：レジオネラ肺炎臨床診断モデルの作成に関する検討

1. 研究の対象

当教室では川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の承認を得て、1990年4月1日から2018年6月30日の間にレジオネラ肺炎と診断された患者さんを対象に研究を実施します。また、レジオネラ肺炎の特徴を拾い上げるため、年齢、性、肺炎の重症度をマッチさせた肺炎患者も研究対象とします。研究期間は倫理委員会承認日～2020年8月31日までの予定です。この研究の成果としてレジオネラ肺炎迅速診断法の有用性が明らかとなり、患者に対する適切な治療法と予防法の選択が可能となります。

2. 研究目的・方法

レジオネラは呼吸器感染症の重要な病原体で、温泉や24時間風呂から感染することが有名です。本病原体は四類全数把握疾患に指定されており、その届け出数は年々増加傾向で、2017年には1,700例以上が報告されています。レジオネラ肺炎の特徴は急速に悪化して死に至る頻度の高い事で、不適切な抗菌薬投与によって不幸な転帰をとる患者さんが毎年報告されています。尿からレジオネラを迅速に診断する検査法が存在しますが、感度が低く多くの症例を見逃すことが分かっています。我々の教室では、臨床像から微生物を絞り込む臨床的診断法の研究を行い多くの成果をあげてきました。レジオネラに関しても臨床的診断法の開発を目指しています。

研究成果は学会や学術雑誌に発表することがあります。しかし、個人情報外部に漏れることはありません。また、資料の取り扱いは研究者が所属する教室でのみ行い、外部に提供されることはありません。研究に関するデータは論文等の発表から5年後に破棄いたします。

3. 研究に用いる情報の種類

本研究は後方視的研究であり、既存資料（背景、現病歴、身体診察所見、検査成績、画像所見など）のみを用いた研究です。また、個人が直接同定されうる情報は匿名化を行った後に、データ解析を行うため外部に漏れることはありません。

4. お問い合わせ先

本研究への不参加や、参加取りやめを希望される方または、何か不明なことがありましたら、研究責任者である下記までご連絡くださいますようお願いいたします。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

[問い合わせ先]

研究責任者：総合内科学 1 准教授 宮下修行

電子メール：nao@med.kawasaki-m.ac.jp

電話 086-225-2111 (内線 48025)

5. 利益相反

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では研究責任者の教員研究費のみを使用いたします。また、研究者においては本研究の結果に影響を与えるような資金の受入れはありません。